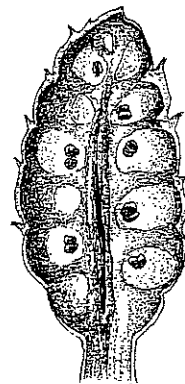
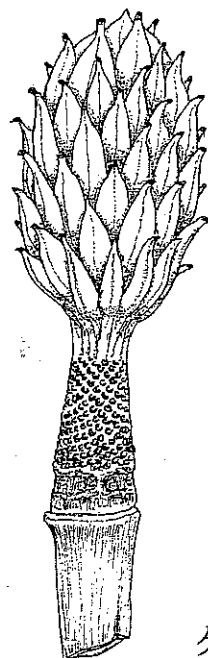


はり ま たん けん
播 磨 探 検

2021. 7. 11
308号
えん 永松弘一

落ちていた花穂 長さ11cm

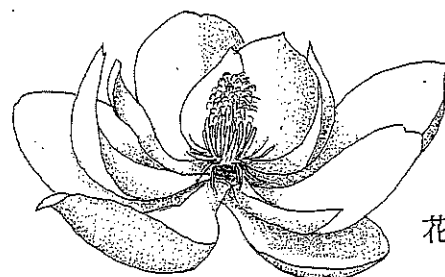


花穂の断面
各房に1~2個未熟な
種子が入っている

裏は微細な毛に覆われる
葉柄を含めて
長さ20cm



つぼみ



花

タイサンボク (モクレン科)

学名: *Magnolia grandiflora*

中庭に艶のある大きな厚い葉をつけた高木が3本植えられている。梅雨時には大きな白い花を咲かせるこの木はタイサンボクである。7月9日現在、花はほぼ咲き終わって花弁は散っているが、1本の木の梢に花が1つ残っている。また別の木にはつぼみが1つ残っている。木の下には咲き終わった花芯がたくさん落ちていた。落ちていた花芯を観察すると、先端のふくらみはパイナップルのように棘のあるうろこ状のものに覆われている。これは雌しべの集まりで花穂という。その下には暗赤色の帯状の部分があるが、これは雄しべが付いていた跡である。さらにその下のくびれは、花びらがくが付いていた跡だろう。

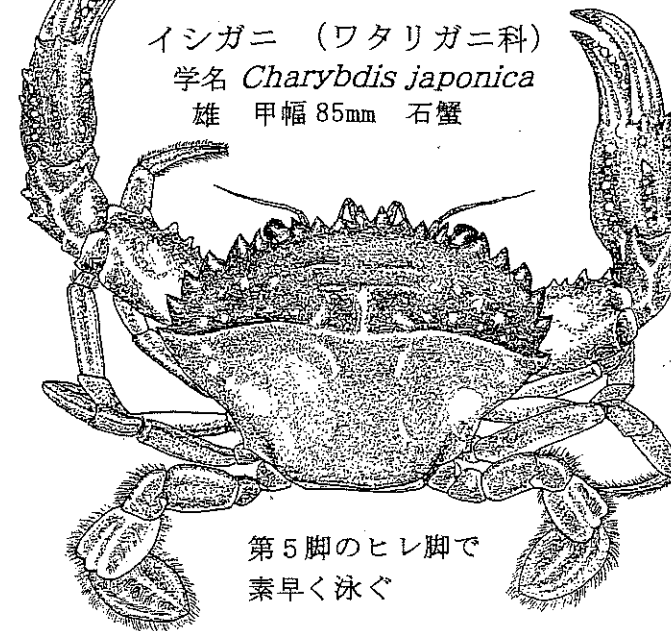
花は枝の先に付くが、なぜこのようにたくさん花穂が落ちてしまうのだろうか？しかも落ちた花穂の根元はすっぱり刃物で切ったような断面で、まるで離層ができて自ら落花したような感じである。

かろうじて枝の先に残って熟した花穂には、秋は種子ができる。これは赤くて光沢があり、柿の種のように大きい。花穂が乾燥して縮んで割れると、中からこの赤い種子が押し出されてくるが、その様子はちょっと奇怪である。種子は糸で吊ったような状態でぶら下がっているが、やがて地面に落ちる。秋には調べてみよう。白くて美しい大きなこの花からはレモンのような清々しい良い香りがするらしい。来年はぜひ嗅いでみよう。

タイサンボクの名前は大山木または泰山木と書いて、大きな葉や花の泰然とした様子を表すという。また別の資料では、この花を大きな杯に見立てて大盞木という名が付いたという説を植物学者の牧野富太郎博士が唱えていると記されている。名前からすると中国の樹かと思ったが、北アメリカ南部原産で明治初期に日本に持ち込まれたらしい。

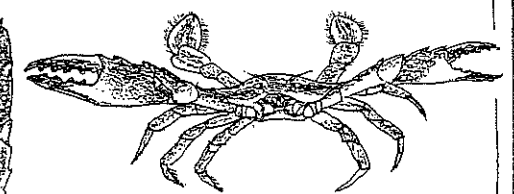
大塩海岸生物調査報告 Vol.4 イシガニ ~その蟹 凶暴につき~

イシガニ (ワタリガニ科)
学名 *Charybdis japonica*
雄 甲幅85mm 石蟹



第5脚のヒレ脚で
素早く泳ぐ

威嚇のポーズ
強力なハサミ脚をふりかざす



イシガニの頭部 触角がある

6月末の日曜日、またしても大塩海岸を訪れた。潮は退いており、当然海風は心地よい。ひと月前に来た時に逃げられたガザミらしきカニを捕獲するのが目的である。例の「瘞癰の舞」で浅瀬の砂を足先で掘り探る。「貝もおらんな…」と焦っているとき、水底の砂の上を歩くカニを発見した。「よし、おったあ！」誰も聞いていないが一応報告する。持っていたバケツとサンダルを使い、ハサミ脚の攻撃をかわしながらカニをなんとかバケツに入れることができた。甲羅の幅8cmのイシガニであった。ツメタガイの卵囊(砂茶碗)と正体不明の骨(長さ20cm)と共にバケツに入れて持ち帰った。その日は都合により食わず、翌日仕事から帰ると、バケツの海水が真っ黒になりカニは死んでいた。ツメタガイの卵囊から何か毒素でも出たのか、バケツからは腐臭がしている。仕方なくカニは廃棄した。

翌週の日曜日、リベンジに燃える私はアジを2匹買い、キッチンでさばいて頭と内臓をナイロンネットに入れた。物置から釣り竿「伊豆100」を取り出した(これは小学校6年生の時買った釣り竿)。頑丈なタモ網と竿、そしてバケツを下げて大塩の浜に降り立った。突堤から水面下の石組の隙間にエサの入ったネットを沈めると、すぐに当たりがきた。ゆっくり引き上げるとカニがネットにつかまっているのが見える。「よしよし、離すんじゃないよ、カニちゃん」水面から出すとカニは素早くエサから離れてしまうので、昨夜寝床でシミュレーションした通り、左手のタモ網を水中のカニの下に滑りこませる。カニは網の中に納まった。2時間足らずで雄4匹と腹に黄色い卵塊を抱いた雌2匹を捕獲し、満足した私は「さすが俺」と自己肯定感に浸りながら家路についた。

2匹はぶつ切りにし、さっそく味噌汁にした。実に旨い。残りは塩ゆでにしてその日と翌日の夕食に。味はワタリガニ(ガザミ)と同じで最高だが、身をとるのはなかなか骨折りである。カニやエビはゆでると赤くなるが、これはアスタキサンチンという色素のせいで、この色素はカニの体内で作られるのではなく、この色素を含むプランクトンを食べたためにカニの体内に蓄積されるらしい。イシガニなどワタリガニの仲間は第5脚がヒレ脚になっていて、素早く泳ぐことができる。英名は Japanese swimming crab である。